

厚生労働科学研究費委託費（革新的がん医療実用化研究事業）

委託業務成果 報告書（業務報告）

大腸がん肝転移切除例に適した新規抗がん剤を用いた術後補助化学療法の研究

担当責任者 関本貢嗣 国立病院機構大阪医療センター 副院長

研究要旨：大腸がん肝転移切除例における術後補助化学療法の有用性を検討する

A．研究目的

未だその有用性が明らかになっていない大腸がん肝転移における術後補助化学療法の有用性を前向きランダム化比較試験によって検討する

B．研究方法

切除可能な大腸がん肝転移症例に対して術後補助化学療法としてmFOLF0X6を投与する群と手術単独群の無病生存率を比較する

（倫理面への配慮）

院内倫理委員会の承認を得ている

C．研究結果

平成26年度に該当する症例はわずかで、1例を登録しただけであった。

D．考察

異時性肝転移の多くは他院からの紹介症例であり、既に化学療法を受けていることが多い。そのため平成26年に行われた肝転移切除の中で適格例はわずかであった。

E．結論

今後も適格例があれば試験に登録していく。